

宇宙観測グループ

人の移動など

2024年度の研究室の人員は以下のとおりでした。

- 教授：久野 成夫
- 助教：橋本 拓也、本多 俊介
- 事務補助員：益子 詩織
- 大学院生：D3 以上（5名）、D2（2名）、D1（2名）、M2（7名）、M1（10名）、4年生：6名、研究生（1名）

D3の2名が学位を取得予定です。M2の6名が大学院前期課程を修了しました。4年生は4名が大学院進学予定（当研究室）です。5年間大変お世話になった事務補佐員の益子さんが、2025年2月で退職されました。

活動報告

- ・昨年度、学類生4年の佐々木誇虎さんが、物理学類卒業研究ベストプレゼンテーション賞を受賞しました。
- ・今年度も、学類生4年の濱田朝晃さんと照井禅さんが、物理学類卒業研究ベストプレゼンテーション賞を受賞しました。
- ・D3の山本卓さんが、近傍銀河の形態分類に関する研究で学位を取得する予定です。
- ・橋本助教が、河合塾みらいブックで取材を受けて、宇宙観測研究室の様子を紹介しました。
- ・橋本助教らの研究が、岩波書店『科学』6月号の特集で紹介されました。
- ・一般の方々に向けた第15回七夕講演会が開催されました。ついに南極へと出発する電波望遠鏡の状況や観測展望について久野教授が

講演をしました。

- ・橋本助教らの共同研究がNature誌に掲載され、プレスリリースされました。133億光年かなたの星団の発見に関する研究です。
- ・弘前大学で銀河・IGM研究会2024を開催しました。修士1年の大曾根さんが最優秀グループ発表賞を、修士2年の碓氷さんが優秀グループ発表賞を、それぞれ受賞しました。
- ・南極30cm望遠鏡を南極内陸部のドームふじに設置して、銀河系における星間ガスの進化過程を明らかにする計画を進めています。助教の本多さんが、第66次南極ドームふじ隊に参加して、現地での準備を開始しました（図1）。来年度はいよいよ望遠鏡を南極に送り出します。詳細は、極地研観測隊ブログ（<https://nipr-blog.nipr.ac.jp/jare/20250128post-552.html>）をご覧ください。

（久野成夫）



図1. ドームふじの現在の様子。望遠鏡を載せる台や電源関係の部屋が設置されている。左が本多助教。（撮影：本多俊介）